

リンゴ‘ふじ’の花芽分化期と 分化率に及ぼす環境の影響

研究のねらい

これまで、‘ふじ’は年によって花芽分化率が低く、隔年結果性の強い品種に位置づけられている。そこで、花芽分化期の把握と分化率に及ぼす気象要因の影響を解明し、安定生産のための参考資料を得る。

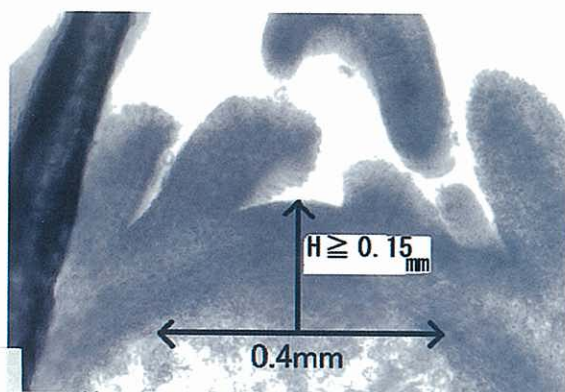
研究の成果

花芽分化期を知るため、定期的に頂芽を採取し、芽の縦断切片を作って芽の生長点部分の隆起量を測定した結果、分化期は7月中～下旬であった。

花芽形成に及ぼす日照の影響を調べるために遮光率75%の寒冷紗を使用し、6～8月の各月ごとに樹全体を遮光したところ、7月に遮光した区が翌年の花芽率が最も低くなった。

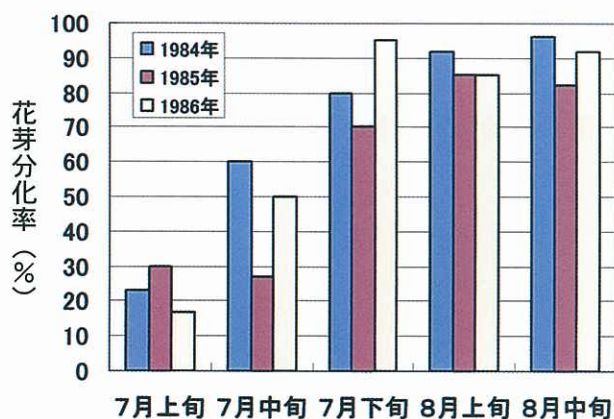
花芽形成に及ぼす気温の影響を調べるために、人工気象室を利用し、処理温度①12℃（夜温）～20℃（昼温）、②17℃～25℃、③22℃～30℃の3区を設定し、7月の1か月間処理した結果、気温が低いほど花芽率は高かった。

以上の結果から、花芽形成を阻害する要因として、夏場の高温日照不足の影響が大きいと考えられた。



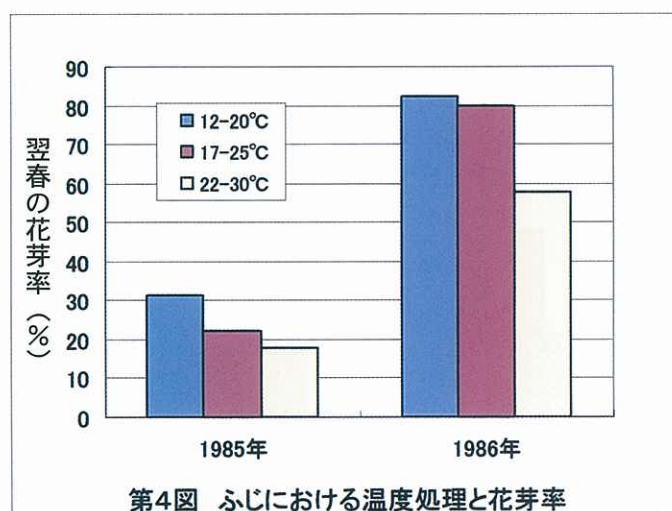
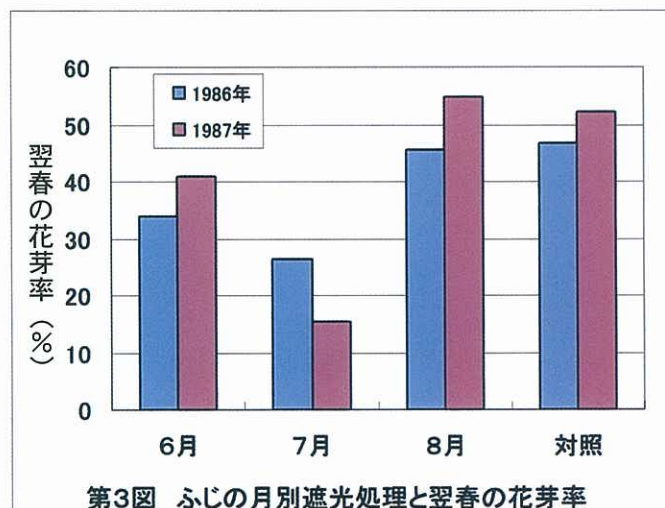
第1図 生長点の測定方法

注) Hが0.15mm以上で花芽分化期と判定される。



第2図 ふじの花芽分化時期

主要な試験データ



発表資料

1. 長内敬明ら (1990). リンゴ‘ふじ’の花芽分化期と花芽分化に及ぼす光と温度の影響. 青森りんご試報 26 : 159-170.
2. 長内敬明ら (1992). リンゴ‘ふじ’の花芽分化及び果実品質に及ぼす夏期の温度処理と生育抑制剤の影響. 園学要旨 (東北) : 3-4.
3. 長内敬明 (1998). リンゴ主要品種の花芽分化期. 東北農業研究 51 : 149-150.